

令和7年度 学力調査等の分析

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から、生徒の実態と課題

生徒の実態	課題																		
<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別正答率を見ると、 <table> <tr> <td>①知識・技能</td> <td>全国平均 + 5. 9</td> </tr> <tr> <td>②思考力・判断力・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td><A 話すこと・聞くこと></td> <td>全国平均 + 2. 6</td> </tr> <tr> <td><B 書くこと ></td> <td>全国平均 + 1. 6</td> </tr> <tr> <td><C 読むこと ></td> <td>全国平均 - 1. 6</td> </tr> </table> ・国語の授業はよくわかると考える生徒 84. 2%であり、都平均より高い。 <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別正答率を見ると、 <table> <tr> <td><A 数と式></td> <td>全国平均 - 1. 9</td> </tr> <tr> <td><B 図形 ></td> <td>全国平均 + 3. 3</td> </tr> <tr> <td><C 関数 ></td> <td>全国平均 - 3. 4</td> </tr> <tr> <td><D データの活用></td> <td>全国平均 + 0. 6 であった。</td> </tr> </table> ・数学の授業はよくわかると考える生徒 72. 6% 将来の役に立つと考える生徒 74. 8% であり、都平均より高い。一方で、普段の生活の中で活用を考えている生徒は 51. 1%程度で都平均を下回る。 <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都の平均を上回っている問題数が 5 / 22 問、全国平均を上回っている問題数は 4 / 22 問だった。 ・第三学年対象の授業評価アンケートでは、「授業はよくわかる」という割合が 80 パーセントを超えていている。 	①知識・技能	全国平均 + 5. 9	②思考力・判断力・表現		<A 話すこと・聞くこと>	全国平均 + 2. 6	<B 書くこと >	全国平均 + 1. 6	<C 読むこと >	全国平均 - 1. 6	<A 数と式>	全国平均 - 1. 9	<B 図形 >	全国平均 + 3. 3	<C 関数 >	全国平均 - 3. 4	<D データの活用>	全国平均 + 0. 6 であった。	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の構成や表現の効果について適切なものを選択する、理由を説明する問題の正答率が全国平均より低かった。 →文章を丁寧に読み取ること、自分の考えを丁寧に述べるために苦手意識をもつ生徒が一定数いる。 ・「読むこと・書くこと」に関する課題を活用して、力をつけていく。 <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度前半に学習する<A数と式><C関数>の正答率は低いが、後半に学習する<B図形><Dデータの活用>の正答率は高い。 →日々頃から復習（家庭学習）を行う習慣を身に付けること。 基本的な計算技能を身に付けていくこと。 ・数学の知識を普段の生活の中でどのように活用できるのか考えながら学習することが必要である。 <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都や全国の平均を上回っている問題は、2年生の後半から現在にかけての学習内容からの出題がほとんどであった。そのため、授業直後などの短期的な知識の定着はできているが、長期的な知識の定着、つまりスパイラル学習などが足りていない。 ・記述で解答する問題や思考・判断・表現を問う問題の正答率が低いため、演習問題などで記述力、表現力を身に付けていく必要がある。
①知識・技能	全国平均 + 5. 9																		
②思考力・判断力・表現																			
<A 話すこと・聞くこと>	全国平均 + 2. 6																		
<B 書くこと >	全国平均 + 1. 6																		
<C 読むこと >	全国平均 - 1. 6																		
<A 数と式>	全国平均 - 1. 9																		
<B 図形 >	全国平均 + 3. 3																		
<C 関数 >	全国平均 - 3. 4																		
<D データの活用>	全国平均 + 0. 6 であった。																		

(2) 東京都児童・生徒体力・運動能力調査の結果から、生徒の実態と課題

生徒の実態	課題
<p>(令和6年度の調査結果より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子は1年では、反復横跳び、2年では、握力、長座体前屈、反復横跳び、ボール投げ、持久走、3年では、長座体前屈が都平均を上回っている。女子は全学年で、反復横跳び、長座体前屈が都平均を上回っている。 ・全学年男女ともに、上体起こして1. 3回～6. 5回、立ち幅跳びで3. 2 cm～12. 5 cm、都平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋持久力を高めること。 ・瞬発力を高めること。

(3) 東京ベーシック・ドリルの結果から、生徒の実態と課題

生徒の実態	課題
<p>(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[1]～[6] の計算問題の正答率は、平均して 58. 3 % であった。 ・[8] の比例、反比例に関する問題の正答率は 9. 8 % であった。 <p>(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[18] のデータの分析と活用に関する問題の正答率は 8. 1 % であった。 ・[11] の比例のグラフの正答率は 29. 7 %、[12] の反比例のグラフの正答率は 27 % であった。 	<p>(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四則演算について基本となる計算法則を正しく理解し、反復して演習すること。 ・問題文から正しく立式し、比例の関係にあるか反比例の関係にあるかを判断すること。 <p>(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表値の意味を正しく理解するとともに、日常にある現象について、それらを用いて整理、分析をすること。 ・関数において、表・式・グラフの相互関係を理解し、適切に表現すること。

(4) 定期考査、授業アンケートの結果から、生徒の実態と課題

	生徒の実態	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、漢字テスト等では知識・技能に関する達成率は77%以上である。 定期考査の思考・判断・表現に関する問題の達成率は60%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 問い合わせに対して、文章で何を説明するのか判断すること。また適切に表現すること。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査等では知識・技能に関する達成率、思考・判断・表現に関する問題の達成率は各学年60%程度であった。 授業アンケートでは、90%以上の生徒が「意欲的に取り組むことができている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の定着を一層はかること。 生徒の意欲から授業内での課題への取組や定期考査の結果に表れるようにすること。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では知識・技能を問う問題の達成率は70%程度であった。一方で思考・判断・表現を問う問題の達成率は50%程度であった。 授業アンケートでは約80%の生徒が「解き方や考え方を理解している」と答えている。しかし、単元テストや定期考査等での習熟度は60%程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や問題集で扱っている問題に取り組むだけでなく、未知の問題に対して、数学を活用して解決方法を考え、粘り強く取り組むこと。 家庭学習などで、反復演習やテストの解き直しを行い、自身の定着度を確かめ、自らの学習を調整すること。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、知識・技能の達成率は1年生から順に54%、58%、72%であった。思考・判断・表現を問う問題は、1年生から順に、35%、53%、58%であった。 授業アンケートでは、1年生が65%、2年生が50%、3年生が55%の生徒が「意欲的に取り組むことができている」と回答しているが、65~70%には上げていきたい。 知識の分野を全学年で70%近くに上げたい。思考・判断・表現を問う問題は空欄が多く、正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識理解の更なる定着を図りつつ(80%程度に上げていきたい)、応用問題や記述問題に取り組むなどして、思考・判断・表現力を身に付ける(60%程度)。 自分の考えや意見を言葉や図、グラフなどで表現すること。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、知識・技能については学年があがるにつれて正答率が高くなっていた。 授業アンケートでは、1年生は80%以上、2・3年生は90%以上の生徒が「意欲的に授業に取り組むことができている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な知識や作業についてよく理解し、繰り返し学習して定着していくこと。 表現活動において、自己の課題を見付け、解決に向けて努力すること。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では知識・技能を問う問題の達成率が1年生は50%、2、3年生は70%程度であった。 作品制作の発想に時間がかかり、提出期限までに作品を完成させることができない生徒もいた。 授業アンケートでは75%以上の生徒が意欲的に授業に取り組むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能について内容をよく理解し粘り強く取り組むこと。 発想をスムーズに行えること。 作品を計画的に制作できること。
保育	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、知識・技能の達成率は1年生46%、2年生62%、3年生64%であった。また、思考・判断・表現を問う問題では、1年生48%、2年生74%、3年生66%であった。どの学年も、選択する問題は回答率、正答率ともに高いが、説明する問題は、回答率、正答率ともに低い傾向がある。 授業アンケートでは、80%以上の生徒が「意欲的に取り組むことができている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識を正しく理解し、自分で言語化することができるよう努力すること。 運動や健康について自己の課題を見付け、合理的な解決に向けて思考し、それを他者へ伝える能力を養うこと。
技術	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、知識・技能の達成率は1年生から順に26%、42%、66%であった。思考・判断・表現を問う問題は、1年生から順に、40%、75%、48%であった。 授業アンケートでは、90%以上の生徒が「意欲的に取り組むことができている」と回答しているが、知識の分野が1、2年生において半分以下の達成率になっている。思考・判断・表現を問う問題は空欄が多く、正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識を活用しながら、自分で考えて作業工程を考えること。 学習した知識と、行っている作業の関連性をより深く理解すること。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の達成率が1年生36%、2年生64%、3年生68%となっており、特に1年生の理解が不十分になっている。 全体的に回答を暗記して覚えている生徒が多く、思考・判断・表現を問う問題では、満点解答ができた生徒は20%に満たなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ知識を生活や授業内で活用できるように内容の理解をすすめること。 解答の暗記をするのではなく、どうしてこのような解答になるのか、仕組みや理由を理解すること。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、知識・技能の達成率が1年生58.8%、2年生61.1%、3年生73.0%であった。思考・判断・表現の達成率は、1年生54.2%、2年生66.1%、3年生60.0%であった。 授業アンケートでは、90%以上の生徒が「解き方や考え方を理解している」と答えているが、定期考査の結果と比べると、その知識が活かされていない部分が多いことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英単語や基本文の語順などを定着し、表現すること。 話す場面において、ネイティブの発音を意識するとともに、既習事項を用いて相手に自分の考えを伝えるだけのコミュニケーション能力を身に付けること。